

ホタテガイ養殖管理情報

中層（10～15m層）で水温が23℃以上になっているので 稚貝の施設を水温の低い下層へ沈めて安定させましょう

1 海況

7月26日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は、図1のとおりで、23℃以上になっている地区があります（各ブイの詳細は、海ナビ@あおもりを参照）。

2 養殖管理の注意点

(1) 稚貝

水温が23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります。また、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（図2、3）。

このため、**早めの稚貝採取により、体力のある稚貝を育成するようにしましょう。**また、**採苗器及び稚貝採取後のパールネットは、できるだけ水温の低い下層に沈め安定**させましょう。

(2) 新貝・成貝

水温が20℃で成長はストップし、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱のエネルギーを使って生命を維持しますが、23℃を超えるとエネルギーの消耗が激しくなり、最後はエネルギー不足でへい死します（図2、3）。

このため、**出荷する予定以外の貝は引き続き、できるだけ水温の低い下層に沈め**ましょう。また、体力の消耗を抑えるために、玉付け、掃除、へい死確認などの作業は行わないようにしましょう。

3 お知らせ

9月中旬頃に稚貝調査を実施し、稚貝分散の時期や注意点をホタテガイ養殖管理情報に掲載しますので、作業の参考にしてください。

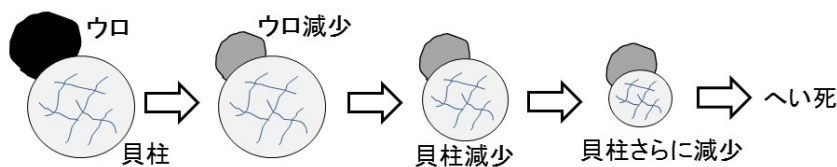


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

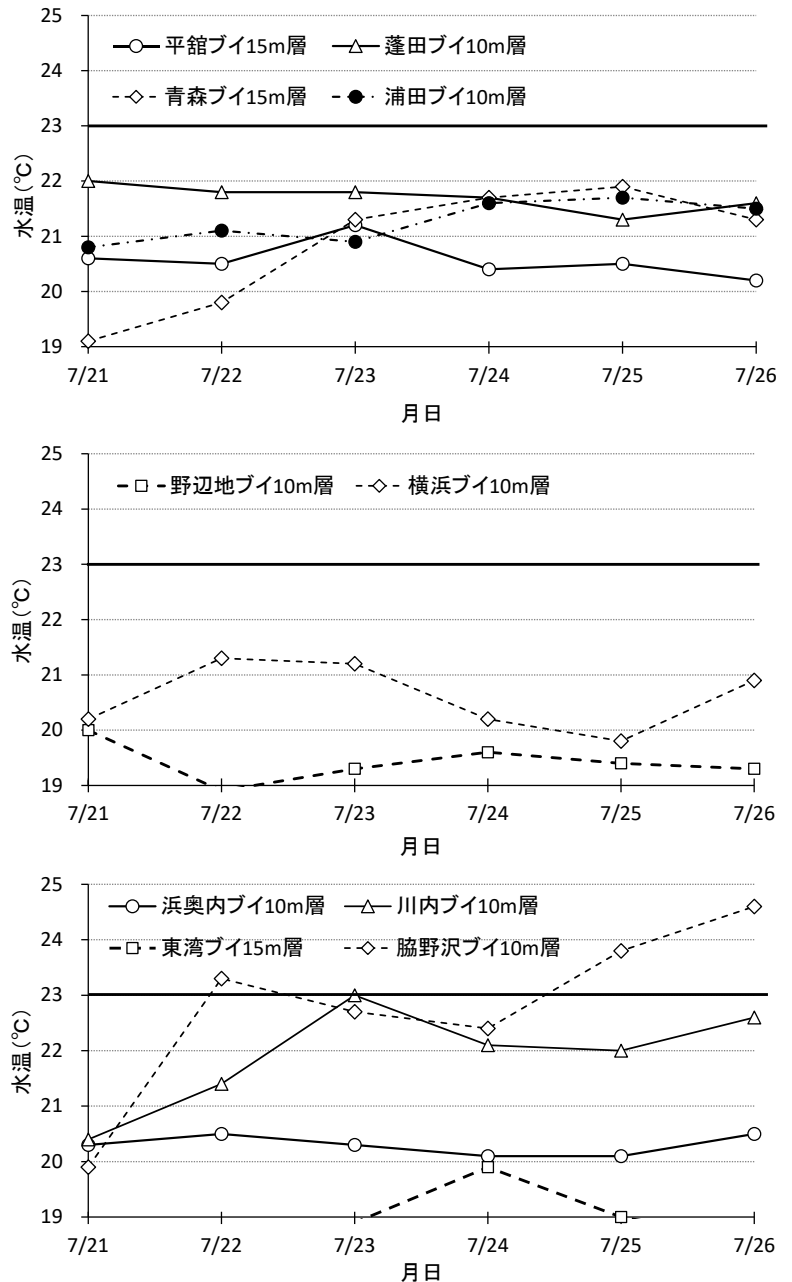


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

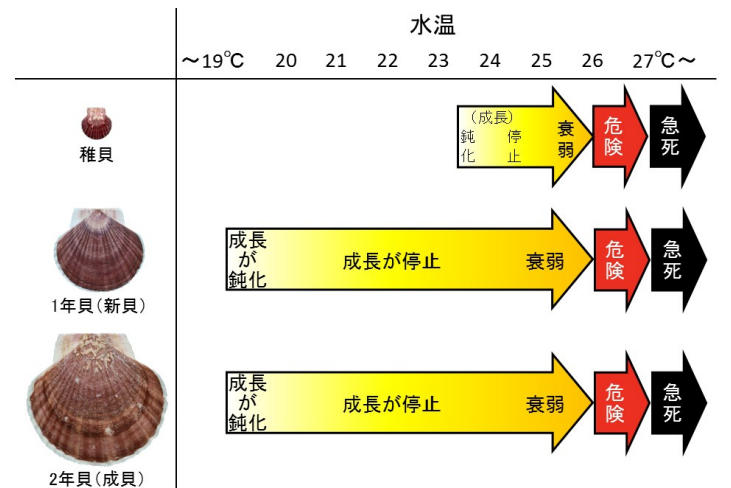


図2 稚貝の成長と生残率に与える水温の影響

